

## 【磯子区】令和 8 年第 1 回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和 8 年 2 月 6 日（金）10 時 00 分～11 時 15 分
場 所	磯子区役所 7 階 701、702 会議室
出席者	<p>【座 長】 関 勝則 議員</p> <p>【議 員： 2 名】 二井 くみよ 議員、武田 勝久 議員</p> <p>【磯子区： 26 名】 高橋 功 区長、八谷 将人 副区長、 近藤 健彦 福祉保健センター長、 立花 千恵 福祉保健センター担当部長、 黒羽根 能生 磯子土木事務所長、 渡邊 浩司 磯子消防署長 ほか関係職員</p>
議 題	議題 1 令和 8 年度磯子区個性ある区づくり推進費の予算案について
発言の 要 旨	<p>二井議員：まず、全体の予算について伺います。主要事業の一覧の 3 つの柱のうち、地域の魅力に関する予算が昨年比で約 600～700 万円増加している一方で、子ども・高齢者など福祉関係の予算が 3,000 万から 2,400 万円へ減少しています。「安心・安全なまち」の予算は増減はないと思いますが、子ども子育てや高齢者福祉は重要な分野です。区制 100 周年や GREEN×EXPO の準備も重要であることは承知していますが、この予算配分の考え方を伺いたしたいと思います。</p> <p>高橋区長：ご指摘のとおり、区づくり予算としてどこに重点を置くかについて、全体のバランスをとるのに非常に苦慮いたしました。市の中期計画では、「安心・安全」の観点から「防犯」が最優先事項として掲げられております。また、「子育て」施策についても市全体で重点的に予算が増加し、それが再配当として区に配分され、区が執行する流れとなっております。</p> <p>その中で、来年 1 月から始まる区制 100 周年に向け、既存の区づ</p>

くり予算を一部抑えつつ、100周年関連を重点化する判断をいたしました。そのような考え方で編成していることをご理解いただければと思います。

立花福祉保健センター担当部長：福祉関係の予算の減額は、第5期地域福祉保健計画の策定が終了したことによる委託費の減額が減額のほとんどを占めているとご理解いただければと思います。

二井議員：続いて、「区制100周年記念事業」について伺います。

まず「いそご「百彩パネル」制作事業」ですが、私自身の区政報告でも発信しており、多くの区民に参加していただきたいと考えています。“磯子の思い出”の現在の応募状況はいかがでしょうか。

また、「デザインマンホール事業」については、全国でも人気のある事業で、磯子区オリジナルのマンホールが作られることを嬉しく思っています。どれくらいの時期に何か所設置される予定でしょうか。

さらに、「100周年機運醸成事業」の記念グッズについて、缶バッジを着用して賀詞交換会に出席しますと、欲しいと声を掛けられたこともありました。ピンバッジなどを作られる予定と伺っておりますが、記念グッズの製作の具体的なスケジュールを教えてください。

吉田区政推進課長：「百彩パネル」制作にあたっての“磯子の思い出”募集に関しては、現在30件ほど応募がございます。募集は2月末までとなっており、先日タウンニュースにも掲載されました。杉田劇場と連携しながら引き続きPRを行っていきます。

仲澤土木事務所副所長：デザインマンホールは、区制100周年を迎える他の区と連携して作業を進めています。磯子区内は現時点で6枚を来年度中に設置する予定です。予算の状況を見つつ、追加設置も検討してまいります。

鎌田戸籍課長：缶バッジなどの記念グッズについては、来年度のイベントで

配布できるよう、スケジュールに合わせて準備を進めていきたいと考えています。

二井議員：続いて、「区の魅力創出・発信事業」の「磯子の逸品」について伺います。私自身、区内の逸品を食べ歩きしていきまして、これに掲載されることでそのお店のメニューを食べようという動機につながると思います。「磯子の逸品」の追加認定を望む事業者も多いと感じます。追加認定はどのくらいの店舗数を予定しているのか。また、掲載による効果はどのように把握しているのか、お伺いします。

吉田区政推進課長：1点目の追加認定の件数については、現在検討しているところです。現在は全体で37品となっておりますが、一旦認定しても閉店などの理由で数が減っている状況がございます。そのため、今回の追加認定では、その減少分を補えるような件数を想定しています。詳細につきましては、記者発表等でお知らせできればと考えています。

続いて2点目の掲載の効果については、現在、広報よこはま区版で数か月に1回、「磯子の逸品」を連載コラムで紹介しています。広報紙から「ISOGO+」のウェブサイトへ誘導できるよう、クーポンを付けるなどの工夫も行っています。具体的な効果については今後集計していきますが、今年度のまとめとして整理し、来年度にしっかり活かしていきたいと考えております。

二井議員：多くの方に逸品をご購入いただけるよう、引き続き取り組んでいただければと思います。

次に17ページの「区政推進事業」について伺います。区民意識調査は、私も参考にさせていただく機会が多いのですが、今回8年度に調査が行われる予定とのことで、この調査を区制100周年の事業にどのように反映していくのか教えてください。

また、GREEN×EXPOに関する調査は市全体で実施されていると承知していますが、磯子区内で区制100周年の認知度を測っているのか、あるいは今後測定される予定があるのか、どの程度の認知度があるのかについてお伺いしたいと思います。

吉田区政推進課長：区民意識調査について、区制 100 周年に関する設問をどのような形で盛り込んでいくかは、まさに現在、内部で議論を進めている段階です。

100 周年の認知度そのものだけではなく、100 周年を迎える磯子区への愛着や誇り、魅力に関する指標を調査項目として盛り込むなど、さまざまな方向で議論を進めているところです。

二井議員：現在の 100 周年の認知度はどの程度でしょうか。

吉田区政推進課長：現時点では 100 周年の認知度そのものは測っておりませんので、具体的な数字は把握しておりませんが、多くの方に知ってもらえるよう広報を検討していきます。

二井議員：多くの方に 100 周年を知っていただきたいと思います。

続きまして、20 ページの「地域と一緒に作る防災・減災事業」のペット同行避難について伺います。先日、洋光台第四小の地域防災拠点訓練に参加させていただき、大変勉強になりました。ペット防災は課題が多いと感じておりましたが、実際に現場を見ることで、様々な課題が見えてきました。

まず、猫は避難が非常に難しいという点がよく理解できました。市が普及しているペット防災では、「動物」として一括りにされており犬と猫の区別が十分に考慮されていないですが、犬と猫に分けた啓発をしないといざというときに避難が難しいことがよく分かりました。

また、犬についても、避難スペースが少ないという課題があり、自宅での在宅避難ができずに避難所に来られた場合、飼育ケージに入れるか入れないかで差があることが分かりました。この点も踏まえて、訓練で得た課題をどのように活かされるのか教えてください。

古家生活衛生課長：犬と猫の特性の違いは確かに大きく、避難してくる犬の種類把握なども課題であると認識しています。今回の訓練で得られた知見は、今後、地域防災拠点運営委員会連絡協議会等の場

で改めて検討し、同行避難を始めとするペット防災の意識を広めるための啓発を続けていきたいと思えます。

二井議員：具体的な検討が進むことを期待しております。

次に 21 ページの「地域・学校防犯力強化事業」についてです。今回の令和 8 年度の予算編成では、市全体として「安心・安全なまちづくり」が大きなポイントだと受け止めています。磯子区においても独自に安心・安全のための予算が計上されていますが、市民局などが実施する防犯関連事業との関係もあると思えます。磯子区としてどのように防犯力を高めようとしているのか、どのような考え方で予算を編成されたのか伺います。

荒木地域振興課長：8 年度予算案では、市民局の方で、センサーや防犯カメラを搭載したスマート防犯灯の実証実験、宅配ボックスの設置、そして既存防犯灯の灯数拡充などが予定されています。これらを区としてどのように制度運用していくか、今後、市民局から具体的な示しがある予定ですので、地域のご要望を的確に受け止めながら必要な措置を講じていきます。

区独自の事業としては、基本的には既存事業の中での動きになりますが、防犯のまちづくり推進条例や推進プランの周知のほか、地域の防犯パトロールへの活動物品の提供などを進め、地域の活動を支援していきたいと考えています。

二井議員：地域ごとの特性を踏まえて、安心・安全なまちづくりに引き続き務めていただきたいと思います。

最後に 25 ページの「区民の健康づくり応援事業」のがん検診について伺います。市の予算では病気の予防の観点で、65～69 歳の検診無料化や精密検査の助成などが特徴的です。これを受けて磯子区が独自にどのように検診の啓発を強化されるのか、また区として認識されている課題があれば教えてください。

川崎福祉保健課課長：市の施策で 65 歳以上のがん検診が無償化され、磯子区では 65～69 歳の約 9,000 人の方が新たに無償化の対象となります。そのため、こうした方々への広報・啓発に一層力を入れて

いきます。予算額自体は例年と同様ですが、どのような啓発が効果的か、毎年検討を重ねながら実施しており、機会を捉えて啓発していきたいと考えています。区の課題認識としては、磯子区では特に乳がんの死亡率が高い傾向にあることから、乳がん検診の普及啓発には重点的に取り組んでおります。

二井議員：新たに無料化される9,000人の方が、なるべく多く検診に行かれるよう、引き続きの取り組みをお願いします。質問は以上です。

関議員：私からも何点か伺います。新年度から新たな中期計画が始まりますが、区の予算案で「重点」と「新規」とされている事業が、中期計画とどのようにリンクしているのかを確認したいと思います。区の重点施策はすべて中期計画に含まれているのか、あるいは区独自の取組が存在するのか、その関係性を区長に伺いたと思います。

高橋区長：現在、すべての課題が中期計画に完全に含まれているわけではございません。本来であれば中期計画に反映されることが理想ですが、現状はそうになっていない部分もございます。私としては、区の予算については、区づくり市議員会議でいただいたご意見や地域の声を踏まえて、もう少し柔軟に運用してもよいのではないかと考えております。

また、次期中期計画では「子育てしたいまちづくり」や「安心・安全」などの重点項目が提示されておりますが、個別のメニューがまだ明確に出そろっている状況ではございません。そのため、4月からすぐに具体的に動けるものばかりではないと思いますので、関係者と議論しながら、区としてどのように関わり、どう執行していくのか、区として横出しや上乘せが可能であれば、年度途中であっても対応していきたいと考えております。現時点では、そうした方向性で議論をしていきたいという状況でございます。

関議員：区長のお話のとおり、18区それぞれ特色があり、すべてが中期計画に当てはまるとは限らないという点は理解しております。

今回私が気にしているのは、今回の予算と事業計画を、単に次年度の取組として実施するだけでなく、1年後に「どのような成果があったのか」区民目線・市民目線で成果を毎年評価するという視点です。

先ほど二井議員の質問にもありましたとおり、区民意識調査が行われますが、そのデータをどのように収集し、中期計画の指標と結びつけていくのかが、まだ明確ではないように見受けられます。区民の皆さんの意識は非常に重要であり、区の事業に対する区民の実感を把握するためにも、中期計画の評価指標と区民意識調査をうまく結びつけ、二重の調査にならないようにしながら翌年度以降の施策に反映することが重要だと考えますが、いかがでしょうか。

高橋区長：ご指摘のとおり、政策経営局が実施している市民意識調査と、区が実施する区民意識調査がなるべく連携できるようにしたいと考えております。先生方からのご意見をいただきつつ、丁寧に制度設計を進めてまいります。

関議員：私の方からも政策経営局へしっかり伝えてまいります。

次に、個別の件で恐縮ですが、「自治会町内会館の建替・修繕」についてお伺いします。新年度に磯子区内で相談が寄せられている件数があれば教えてください。

荒木地域振興課長：事前相談の件数については、現時点で具体的な数字を把握しておりません。お問い合わせがあった際に随時対応している状況で、数字としては持ち合わせておりません。

関議員：では、令和7年度に建替・修繕を行った会館はありましたか。資料でいただけますか。

荒木地域振興課長：後ほど資料として提出いたします。

関議員：新年度からは自治会町内会館の建替・修繕に新たなメニューが追加されるので、区として積極的に周知していただきたいと思いま

す。事前相談があれば、ぜひ積極的に制度の活用を呼びかけてもらいたいと思います。

最後に、「区制 100 周年記念事業」についてお伺いします。100 周年を盛り上げようということで、様々な具体的事業が出てきていますが、この他に「こういうことで盛り上げたい」というようなアイデアが地域や団体から寄せられていたら教えてください。

八谷副区長：100 周年については、現在実行委員会の中に部会を設置して検討を進めており、その中で委員の皆様から頻繁にご意見をいただいております。音楽関係のアイデアなどもあります。まだ具体的な企画として固まってはいません。今後、100 周年の冠を付けた事業を各地域団体等にお願ひし、一覧化していく予定です。

関議員：区民の参加が盛り上げにつながるため、今後も積極的に進めてほしいと考えています。寄付の集まり具合を見ながら、ピンバッジの作成や、様々なグッズも検討されることになるとと思います。基本的には、実行委員会から出されるアイデアを吟味しながら、実施内容を決めていくという考え方でよろしいでしょうか。

八谷副区長：記念グッズや機運醸成のためのグッズには、区が作成するものと実行委員会が作成するものがあり、実行委員会の方は資金面からも区内事業者や区民の皆様の協力をお願ひしたいと考えています。グッズの提供時期やターゲットについては現在検討しており、例えば区制 100 周年の 1 年前のタイミングで缶バッジやピンバッジを出すなど、時期と対象を絞って進めていきたいと考えています。

関議員：続いて、GREEN×EXPO 2027 との連携についてですが、市長も期間中に「区民デー」の実施を検討していると発言されています。まだ具体化していないと思いますが、磯子区としての特色をどう打ち出すか、今から検討していただく必要があると考えています。例えば「磯子の逸品」、商店街支援などに磯子区は力を入れて取り組んでいて、食文化はインバウンドにもアピールできます。区民デーのような場で披露できるよう、何か考えがあればお願ひしま

す。

高橋区長：大変難しいご質問ですが、現時点で磯子区として「これ」といった代表的な特色を一つに絞ることは難しい状況です。ただ、可能性は多くあると考えていますので、先生のご指摘を踏まえて、オーダーをいただいた際にすぐ対応できるよう議論を重ねてまいります。

関議員：ぜひ、チャンスとして捉えて準備を進めていただきたいと思います。私からは以上です。

地域振興課長：先ほどの自治会町内会館の建替え・修繕に対する補助金についてですが、令和7年度は1件の実績がございます。一方、脱炭素化に関する補助金の申請は19件あり、取り下げの1件を除き、18件が交付されております。

関議員：新年度は自治会町内会館の建替・修繕と脱炭素の支援がパッケージとなりますので、ぜひ広く地域へ周知をお願いいたします。

武田議員：まず、12ページの「区制100周年機運醸成事業」についてでございます。区制100周年の周知に向けて、鉄道事業者やバス事業者などと連携した広報、例えばポスター掲示などを検討しておられるかどうか、確認させてください。

吉田区政推進課長：鉄道事業者との連携については、現在JR東日本と協議を進めています。JRでは、GREEN×EXPOに絡めてディスプレイネーションキャンペーンを予定しており、区制100周年のタイミングと重なりますので、双方を効果的にPRできないかという観点で調整を行っているところです。具体的には、磯子駅前の花壇のスペースに大きな看板を設置する方向で協議しています。

武田議員：続いて、記念式典の開催時期についてお伺いいたします。

荒木地域振興課長：式典の開催時期につきましては、区制施行日である10月

1 日前後を想定しております。ただし、日付の確定には至っておりませんが、これから関係者のご意見を伺いながら決定してまいります。

武田議員：続いて、14 ページの「脱炭素・GREEN×EXPO 2027 推進事業」の循環型社会・脱炭素社会の啓発についてお伺いします。これまでも環境啓発イベントを実施されてきたと思いますが、今回記載されている「子ども向け体験型環境啓発イベント」や「夏休みのエコ講座」について、具体的にどのような内容を想定しているのか、ご説明ください。

吉田区政推進課長：子ども向けの体験型環境啓発イベントについてですが、これまでは夏と冬に「エコスクール」と「エコフェスタ」という二つのイベントを実施していました。今年は GREEN×EXPO の開幕 1 年前とタイミングを合わせ、3 月に 2 つのイベントを統合した、より大規模なイベントを企画しています。講座だけでなく、ワークショップや映画上映など、環境について楽しく学べる内容を予定しています。また、区内企業による夏休みのエコ講座についてですが、これまでは小学校への出前講座として実施してきました。しかし、学校での実施がなかなか難しい状況が続いているため、来年度は地区センター等の公共施設を活用し、そこで企業に講座を開いていただくような、子どもたちがより参加しやすい仕組みを検討しています。

武田議員：ごみ分別の啓発についてですが、子ども向けの取組は別の事業として実施されているのでしょうか。

関資源化推進担当課長：ごみの分別の啓発については、通年で要望があればいつでも伺っております。夏休みには、分別講座とあわせて、資源物の大切さを学べるリサイクル工作教室なども実施しており、磯子事務所と連携して取り組んでおります。

武田議員：プラスチックごみの分別も始まりましたが、実際には「これは燃やすごみではなくプラスチックです」といった細かい部分のフォ

ローが必要だと感じています。また、リチウムイオン電池の回収についても、どれが該当するのか分かりづらいとの声があります。例えば「モバイルバッテリーが対象です」といった具体例を含め、より分かりやすい啓発が必要だと思いますので、ぜひ工夫をお願いしたいと思います。

では続いて、16 ページ「区の魅力創出・発信事業」の堀割川と大岡川、中村川や根岸湾をつなげるイベントについて、詳細を確認させてください。

吉田区政推進課長：堀割川と大岡川、中村川、根岸湾をつなげるイベントについては、今年度から試行的に取組を始めています。主に大岡川・中村川で行われている「よこはま運河チャレンジ」というイベントがあり、今年度は11月23日に実施されましたが、そこに堀割川も加えていただきました。具体的には、大岡川・中村川から堀割川までクルーズ船を回していただき、また堀割川でも同じ日に動物検疫所周辺でイベントを実施しました。来年度についても、このような連携を検討できればと考えています。

武田議員：続いて、20 ページ「地域と一緒に作る防災・減災事業」のペット同行避難訓練について伺います。犬のケージは区が準備されているとのことですが、来年度は4か所に増やされる予定とのことです。ケージの数も今後さらに増やしていく方向なのでしょうか。

古家生活衛生課長：ケージにつきましては、訓練では区役所から持参して使用しましたが、実際の避難時には「普段から飼い主の皆様が使用しているケージをお持ちいただくこと」を基本としています。飼い主の皆様に啓発を進め、ペット防災を進めていきたいと考えております。

武田議員：続いて、21 ページ「地域・学校防犯力強化事業」のパトロールの支援について伺います。地域が主体的に行う防犯パトロールを支援するということですが、区から「ぜひ取り組んでほしい」という積極的な働きかけは行っているのでしょうか。

荒木地域振興課長：区では、地域防犯活動のための物品として、のぼり旗やベストなどを提供しております。実際に多くのご要望をいただいております。地域からの相談には、必要な物品を提供する形で対応しております。区からの働きかけについては、区連会を通じて広く呼びかけを行っております。

武田議員：このパトロール活動の写真にもありますが、子どもや若い世代も参加できるようになると、様々な世代がつながる機会という意味でも、良い取組になると思います。防犯について子どもたちも意識を持てるよう、参加の機会が増えることを期待しています。この活動の中で、何か課題があれば教えてください。

荒木地域振興課長：実際には年齢を問わず幅広く参加いただいている地域もあります。しかし、自治会町内会活動と同様に、担い手が減っているという声をいただいているのも事実です。一方で、警察官と一緒にパトロールを行っている地域もあり、さまざまな取組事例があります。他地区の事例も共有しながら、地域主体のパトロールが進むよう、引き続き支援を強化してまいります。

武田議員：最後に、24 ページ「子育て支援事業」の「いそピヨ」について伺います。Sunday いそピヨは日曜日開所でとても好評だと聞いています。私も参加したのですが、特にパパ同士が交流できる企画は、父親の孤立防止にもつながる重要な取組だと感じています。ただ、いそピヨはスペースが狭く、スタッフの負担についても気になっています。来年度は開催回数を10回から12回に増やすとのことですが、スタッフの人員配置の負担は大丈夫なのでしょうか。

坂東子ども家庭支援課長：Sunday いそピヨにご参加いただき、ありがとうございます。ご指摘いただいたとおり、いそピヨのスタッフの人員配置の負担感については以前から負担感が懸念されており、来年度12回に増やすことについても、どのような形がいいのか、丁寧に協議を進めているところです。スタッフの負担と参加される

	<p>方の満足度が両立できるよう引き続き調整してまいります。内容が具体的に決まりましたら、ご報告させていただきたいと考えております。</p> <p>武田議員：引き続きよろしくお願いたします。以上です。</p> <p>関議員：他にご発言がなければ、議題についてはここまでといたします。</p> <p>最後に一点だけお伺いします。屏風ヶ浦駅の交番の統廃合が決まりましたが、この件について地域の皆様から区役所に対して相談がありましたら教えてください。</p> <p>八谷副区長：屏風ヶ浦地区の定例会に参加した際、会長から地域の皆様へ状況を共有されましたが、区役所への具体的な相談などは現時点ではございません。今後、県の動きも踏まえながら、状況に応じて対応していきたいと思ます。</p> <p>関議員：新年度には市民局で新しい防犯条例ができるとのことですので、情報提供も行いながらできることに取り組んでいきたいと思ます。</p>
備 考	